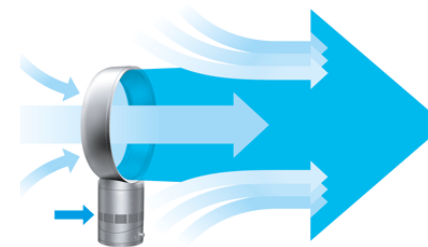


# 英文読解講座 (4)



## ④ スラッシュリーディング：英語の語順通りに読む

LV	Check 項目	語彙	入試英語読解のレベル	必要な訓練
0	7~8 語であれば英文の意味を日本語に置き換えて理解出来る。	~1200	日常会話文読解レベル	基礎文法の Pattern Practice 英和辞典の活用
1	2 行~3 行の長い英文であっても、1 文ずつであれば、構造を正しく分析・理解し英文の意味を日本語に置き換えて理解出来る。	和訳読解レベル (⇒ <b>スラッシュ・リーディング</b> )		体系的英文法の知識習得と運用訓練 S V の識別の基礎構文理解訓練 文脈にあった辞書の語義の選択 (入試和訳では日本語力の向上も)
		~3500	センター~MARCH (人文)	
		5000~	難関私大・国立	
2	各段落の Topic Sentence を意識しながら読み、大意が把握出来る。	パラグラフ・リーディング レベル		Slash Reading・Phrase Reading ディスコース・マーカーの学習 英文の6つの論理の学習 パラグラフ・リーディングの訓練 内容真偽問題による Scanning 訓練 指示語・内容語に関する訓練 頻出 Topic の背景知識学習
		~3500	センター~MARCH (人文)	
		5000~	難関私大・国立	
3	論理的思考力を必要とする英文の読解が出来る。	ロジカル・リーディング レベル		段落整序問題による論理訓練 要約問題による論理訓練 志望学部の入門レベルの背景知識学習
		5000~	難関私大・国立	
4	書かれている文章について自分の視点から批評的な読みが出来る。	クリティカル・リーディング レベル		自由英作文による自己表現訓練 背景知識や関連情報処理能力向上 ディベートによる論理矛盾発見訓練

<和訳読解レベル⇒スラッシュ・リーディング・フレーズリーディング>

【例】 In South America, natives called Incas considered the sun their second gold.

【例】 Once upon a time there was a king who could not speak.

<原稿>

「英語は左から右に情報を流す言語」です。ところが、明治の頃の英語学習以来、日本の英文理解はもっぱら「漢文訳読法」つまり「返り読み」でした。

【例文】 In South America, natives called Incas considered the sun their second gold.

上の英文を読む時、中学の初期の段階から授業では「返り読み」の方法論を叩き込まれることが多いですね。

In South America, natives called Incas considered the sun their second gold.

①            ③            ②            ⑥            ④            ⑤  
(1)            (2)            (3)            (4)            (5)            (6)

南アメリカでは、インカと呼ばれる土着民は、太陽を 第二の黄金と 考えた。

つまり上の英文を「(1)⇒(3)⇒(2)⇒(5)⇒(6)⇒(4)」と読んでいることになります。

In South America, ⇒ called Incas ⇒ natives ⇒ the sun ⇒ their second gold ⇒ considered

しかし、この読み方は、和訳問題を解く場合などにはよいのですが、

- ① 情報処理に時間がかかる。 ⇒ 読解スピードが著しく遅くなる。(明治時代ならともかく…)
- ② 一文一文の理解に神経を使い、全体理解が進まない。(IT時代では通用しない)
- ③ 常に日本語をツールとした理解しか出来ない。(英語の発想が身に付かない)
- ④ リスニングにおける情報処理に大きな障害となる。(最大の欠陥)

といった深刻な問題を生むこととなります。「1文1文の理解(和訳読解レベル)」は初期の段階では必要なことですが、このレベルの読解に留まっている限り、いつまでたっても入試レベルの長文を時間内に処理することは出来ません。では、どのように矯正すればよいのでしょうか？よく『英文を頭から読め』と言われる。『和訳の時は返り読み。速読の時は英語をそのまま読むのですよ』というように言われることもあります。では『英文を頭から読む』『英文をそのまま読む』とはどういうことなのでしょうか？

英文は**センテンス・グループ(SG)**と呼ばれる意味のまとまりを単位として組み立てられています。例えば、

"Once upon a time there was a king who could not speak."という英文は

× Once upon a time there was a king who could not speak.

○ Once upon a time there was a king who could not speak.

というように3つのユニットから成り立っています。この『意味のまとまり』がSGであり意味の伝達はこうしたSGの積み重ねによって行われます。このように英

文構造に従って英語の語順のまま、**SG** 単位で頭から理解を積み重ねていく読み方を **SG Reading** と言いますが、『返り読み』の癖がついている人には慣れるまではきついかもしれませんね。慣れないうちは、鉛筆を手に持って文の意味の区切りごとにスラッシュ(/) を入れながら読んでいく (スラッシュ・リーディング) をやってみましょう。 / を入れることで Reading に一定のリズムが出来ることや、集中力が高まるなどの利点があります。スラッシュを入れる頻度はレベルによって様々ですが、ネイティブのチャンク理解が長くても 7~8 語ということを参考に、自分の理解に合わせて入れてみましょう。

In South America, // natives / called Incas //considered the sun / their second gold.//